

岡山大学広報

いちよう並木

OKAYAMA UNIVERSITY MAGAZINE



OKAYAMA
UNIVERSITY

研究の最前線

Forefront of COVID-19 Research

新型コロナウイルス感染症

「COVID-19」と判定しました。

Vol. 96

2020

CONTENTS

コロナ禍における“こころ”のケア
学生発案企画
岡山大学のインクルーシブ教育
広い世界で活躍する岡山大学の学生たち
ネーミングライツパートナー決定

OU NAVI

新型コロナウイルス感染症

研究の最前線

新型コロナウイルス感染者の発生以降、岡山大学病院も岡山県指定の「重点医療機関」として、救命救急科と

総合内科・総合診療科を中心に患者さんの治療を行っています。まだ先行きは不透明ですが現在、様々な観点から本学研究者が臨床試験や新しい検査方法の確立に向けて

日々研究に取り組んでいます。今回のコロナ禍はまさしく大学病院が使命を発揮できるか否かの試金石。新しい検査・治療体制構築へ向けた、「研究の最前線」を紹介します。

01

胃薬「テプレノン」の臨床試験

新型コロナウイルス肺炎の重症化を抑制？
すでに市販されている胃薬、副作用も少ない。

大学院医歯薬学総合研究科(医)
血液・腫瘍・呼吸器内科学教授

前田 嘉信

MAEDA Yoshinobu

現在、前田嘉信教授らは新型コロナウイルス感染症患者に対し、胃薬の「テプレノン」が重症化の抑制に有効かどうか検証する臨床試験に取り組んでいる。国内で感染者が急増した2020年3月初旬に立案

され、その後具体的プランを急ピッチで推進、異例の早さで本学の臨床研究審査委員会の承認を受けた。その展開について前田教授はこう話す。「もともと我々研究者の間では『テプレノン』の有用性は注目されて

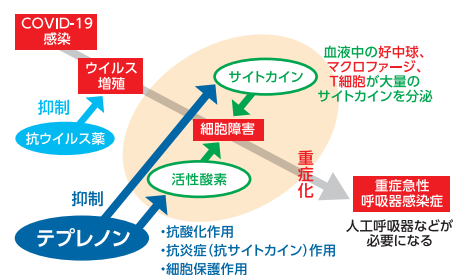




いました。事実、本学：小児医学の塚原宏一教授らの基礎研究の結果から、『テブレノン』の成分が新型コロナウイルス肺炎の重症化を抑制する可能性が示唆されており、それを確かめるために実施したのが今回の臨床試験です。

「テブレノン」は熱ショックタンパク質（HSP）とチオレドキシンというタンパク質を誘導できる。HSPは、細胞が熱などのストレスを受けると生成され、タンパク質の構造異常を修正して細胞を保護する役割を持つ。一方のチオレドキシンは抗酸化酵素で、酸化ストレスから細胞を保護する作用のほか、免疫細胞の好中球やマクロファージ、T細胞の働きを抑制する抗炎症作用を持っている。前述の塚原教授らの基礎研究によって、マウスのインフルエンザ肺炎にチオレドキシンを投与すると生存率が向上し、その抗酸化作用、抗炎症作用が人間のインフルエンザウイルス感染にも有効であることが示唆さ

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）重症化プロセス



「今回の臨床試験で私たちは二つの目標を設定しました。ひとつは『重症化を抑えたい』、もうひとつは『なぜ重症化するのか？』の解明です」。テブレノン療法の比較臨床試験はPCR検査で感染が確認された患者が対象で、当初患者数100人が理想とされたが、幸いにも岡山県は患者数が少ないため、福山市市民病院など中四国の関連病院の協力を得ながら試験は進められている。

『テブレノン』は胃薬として実際に市販されている薬なので抵抗感がない、抗がん剤などと違って副作用が少ないなどのメリットがあります。仮に今後、第3波や未知の新型肺炎が発生した時にも今回の臨床試験結果は必ず有益に作用します」と前田教授は確信する。現在、ワクチンや治療薬の開発が世界中で進んでいるが、動物実験を経て臨床試験で安全性・有効性を確認する必要がある、量産体制の整備なども含めると、実用化には年単位の時間がかかる。そうした中、既に承認され、使われてきた医薬品をそのまま使うことができたなら、そのメリットは大きい。そうした観点からも、前田教授の研究成果に期待が集まっている。



前田 嘉信
■専門分野／
血液・腫瘍・呼吸器内科学
昭和42年生まれ。兵庫県出身。
岡山大学医学部卒。
博士（医学）。
平成29年より現職。

エックス線画像をもとに数十秒で診断。
途上国をはじめ、世界で貢献できる可能性大。

河原 祥朗

KAWAHARA Yoshio

大学院医歯薬学総合研究科(医)
実践地域内視鏡学講座教授



河原 祥朗

■専門分野／実践地域内視鏡学

昭和40年生まれ。岡山県津山市出身。岡山大学医学部卒。平成11年博士号取得(医学)。岡山大学病院光学医療診療部などを経て平成30年より現職。DDW(米国消化器病学会週間) a Best-of-DDW(平成16年5月)、日本消化器内視鏡学会学会賞(平成21年10月)、UEGW(欧州消化器病学会週間) Poster champ award(平成26年10月)



大学院医歯薬学総合研究科の河原祥朗教授(実践地域内視鏡学)が率いる研究グループは、人工知能(AI)を使ってエックス線画像から新型コロナウイルス感染症の肺炎を診断する検査システムを開発した。

現在、新型コロナウイルス肺炎が疑われる患者には、ウイルスの有無を確認するPCR検査を行い、その後、エックス線検査やCT検査で肺の炎症具合を確認している。ただ、CT検査はエックス線撮影と比較すると、肺炎の早期診断や合併症の有無、鑑別診断に有用とされる一方、被曝量も多く、検査装置を導入している施設数も地域によっては限られているため、クラスター(感染集団)が発生した際に対応しきれない恐れがあると言われている。

そうした状況を鑑みて今回開発された新しい検査システムの概要を、開発の中心メンバーである河原教授はこう話す。

「まず、我々は人工知能が得意とするスクリーニングを医療提供体制の支援に用いることができるのか検討を行いました。その結果、ウォータールー大学のアレクサンダー・ウォン教授と助手のリンダ・ワン博士、カナダのAI企業ダーウィン社らによって開発された人工知能プログラムを活用し、胸部エックス線画像から新型コロナウイルスを検出するシステムの開発に至りました。現

在、日本における新型コロナウイルス肺炎の症例画像を用いて、本システムの検出精度を検証したところ、87%程度の正診率が確認できました。(2020年10月時点)。

しかしなぜCTではなくエックス線画像なのか? その理由を尋ねると、

「精度のみを問うのであれば、CT検査がベターですが、CT検査装置はレントゲン検査装置に比べて設置数も少なく、コロナの感染が疑われる患者だけでなく、それ以外の患者にも利用することを考慮すると、クラスターが生じた際は、診療体制が間に合わないケースが想定されます。そこで私たちは町のクリニックや一般病院でも対応できるエックス線画像に着目しました。今後、本システムが実用化されれば、日本のみならず、CT装置が普及していないアフリカや中南米などの途上国をはじめ、世界中の医療現場に貢献できると信じています」。

今後、検査システムの有用性が証明され、実用化されれば、CTやPCRなどさらなる精査が必要となる患者の拾い上げや絞り込みにも大きく貢献できると予想されている。「おそらくですが、コロナウイルスをなくすのは難しい。だからこそより簡素で迅速な検査システムが必須」と河原教授。今後の研究結果が注目されている。



◀ 検査システムによる
診断の様子(YouTube)

03

抗原検査の精度評価・院内感染対策など



PCR検査に代わる新しい検査法の評価、
感染症学の知識を活かした感染対策にも着手。

大学院医歯薬学総合研究科総合内科学に所属し、長きにわたって臨床感染症学、薬剤耐性菌の研究を続けている萩谷英大准教授。今回の新型コロナウイルス対策では、その豊富な専門知識を活かし、新しい抗原検査の精度評価や院内感染対策など様々な側面から尽力を続けている。

「まず抗原検査の精度評価に関して言えば、新型コロナウイルス感染症が猛烈なスピードで拡散していた2020年の4月頃、早期の診断が感染予防・治療に有用だと分かっていたにも関わらず、信頼性のある診断方法がPCR検査しかないのが実情でした。今回の試みは、PCR検査との結果比較により、新しく開発された抗原検査用キットの精度を検討するもので、臨床的な有用性が期待されています」と話す萩谷准教授。具体的に、使用する抗原検査用キットは富士レピオ株式会社が開発し、2020年5月13日に製造販売承認を取得、販売が開始された「エスブライン® SARS-CoV-2」。判定時間は30分（陽性であれば30分以内に判定可能）で、8月25日に学内の臨床研究審査委員会の承認を受け、現在、「新型コロナウイルス感染症」を診断・除外する目的で岡山大学病院総合内科・総合診療科を受診した患者を対象に行われている。

次に院内感染対策について尋ねると…

「通常、院内感染対策は、医療従事者が行うものと考えられています。『院内感染対策チーム』の構成要員は、医療従事者だけではありません。スキのない感染対策を実施するには、通院・入院患者さん、また付き添い家族の皆さんのご理解・ご協力が不可欠です」と話す。加えて「誤解なきように言う」と前置きした上で「体液暴露や針刺し事故といったリスクが大きい医療従事者こそ感染予防の意識を今以上に持ってほしい。当たり前ですが手指衛生、標準予防策、ユニバーサルマスクングなどの徹底。感染に対して警戒心が高い今こそ、みんなが意識を共有できるチャンスだと思っています。ピンチはチャンスです」。

併せて、2020年9月からは、総合内科総合診療科に「渡航ワクチン外来」を開設した。その意図を萩谷准教授はこう話す。「新型コロナウイルスの脅威を乗り越え、以前のように海外渡航ができる日が必ず来ると思います。その際には、感染症をしっかりと予防しながら海外旅行を楽しんでいただきたい。そのためにはぜひ渡航前にはワクチン接種を。お気軽に受診してください」とくくった。感染症学のエキスパートとして萩谷准教授の今後の活躍が期待されている。

萩谷 英大

HAGIYA Hideharu

大学院医歯薬学総合研究科(医)
瀬戸内(まがめ)総合診療医学講座 准教授



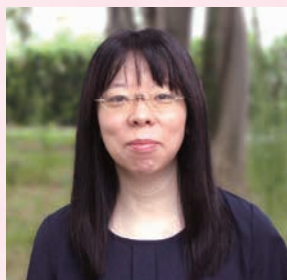
萩谷 英大

■専門分野 / 臨床感染症学

昭和56年生まれ。茨城県出身。岡山大学医学部卒。岡山大学大学院医歯薬学総合研究科修了。博士(医学)。大阪大学医学部附属病院感染制御部などを経て令和元年より現職。JICA大学生国際エッセイコンテスト文部科学大臣奨励賞(平成17年7月)、岡山大学学長特別表彰(平成17年10月)、令和元年度岡山医学会賞教育奨励賞(令和元年6月)



新型コロナウイルスの影響により、岡山大学では3学期においてもオンライン主体の学びを展開しながら、対面の割合を増やすよう進めています。状況が刻々と変わる中、学生相談へ寄せられる悩み・不安の声もこれまでとは異なったものになっています。そんな学生の声に耳を傾け、そっと寄り添う学生相談室のカウンセラー。コロナ禍における岡大生のメンタルケアの実情や課題について、カウンセラーの松井めぐみ准教授と西村大樹助教に話を伺いました。



全学教育・学生支援機構 准教授
松井 めぐみ
MATSUI Megumi



全学教育・学生支援機構 助教
西村 大樹
NISHIMURA Hiroki

コロナ禍における “こころ”のケア

—コロナの影響で学生からの相談内容に変化は生じましたか。

3月末からコロナに関連する相談が徐々に増加し、4月にオンライン授業が開始されてからは、1年生から履修登録や時間割の相談が相次ぎました。5月末には緊急事態宣言が解除されましたが、引き続き様々な生活の制限があり、人と会えない状況で、普段元気で活動的な学生がイライラ、鬱々とするなどの変化が出始めました。一方で、不登校気味であった学生は順調に授業をこなし、「オンライン授業をこれからも続けてほしい」という感想が寄せられました。6月から2学期が始まると、オンライン疲れや課題疲れなどによる相談が増加。「1学期はなんとか頑張っていたのだけど…」という学生からの相談が増え、6月の相談件数は、昨年と比較して1.6倍となりました。特に1年生は、4月の約3倍の相談件数でした。

—どのようなアドバイスをするのでしょうか。

誰とも話ができず引きこもったり、気分が落ち込んだりしている学生には「少し外に出てみようか」「人と話をしてみよう」「悲観的になってしまうときは、ひとまず置いておこう」「ネガティブな情報を見ないようにしよう」「趣味を積極的にやろう」などと提案していました。特に1年生は、勉強の仕方やレポートの書き方など、高校までと異なる大学での学びに対する不安が大きかったようです。対面授業の際には友だちや先生に気軽に確認できていたことが、オンラインでは困難となったことも影響していたと思います。

—相談はオンラインで対応していたと伺いました。

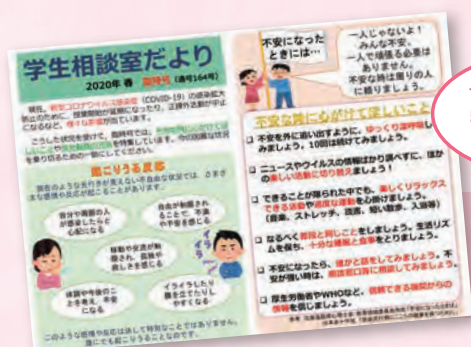
4月17日～6月末までは、対面相談は控えZoomによるオンライン相談、メールや電話相談に切り替えて支援を続けていました。7月からは対面相談を再開しましたが、引き続きZoom、メール、電話相談も実施しています。今年は例年に比べ、メールによる相談件数が多く、内容も長文であったり、自粛生活が長引き、気分の落ち込みや自身の性格や将来についてネガティブに考えこんでしまうものが見受けられました。メール相談に対しては、メールで返答したり「一度相談室に来てみない？」と促したりしています。

—オンライン相談のメリット・デメリットは。

オンライン相談の在り方は我々も試行錯誤しているところですが、幸いオンラインでのやりとりで慣れてきている学生も多く、想像していたよりもきちんと話を聞くことができたと感じています。ただ、学生の雰囲気や状態、表情などはオンラインでは掴みとれない部分もあります。細部から感じるものを大切にしながらカウンセリングをしてきたので、そこは課題に感じています。

—学生へのメッセージをお願いします。

今後も対面相談とオンライン相談をミックスして、良い方をセレクトしてもらえたらと考えています。アクセスしやすい方法で気軽に相談してくださいね。電話相談であればパジャマのままでも気軽に相談できますしね。感染対策をとりつつ、新しいことをやってみたり、これまで通りに自分の日常を過ごすことも大切です。学内メールやHPで配信している「学生相談室だより」には、不安な時に心がけてほしいことや気分転換の方法などを発信していますので、困難な状況を乗り切るための一助にしてくださいね。



ぜひご覧ください！
学生相談室だより
はこちら



不安な時、困った時は学生相談室へ！

- 津島：一般教育棟C棟1階 10～12時/13～17時(月～金曜)
- 鹿田：医学部記念会館3階 10～13時/14～17時(火、木曜)



オンライン子育てサポート 『かまって、おねえちゃん!』



企画

小野 菜々子さん
マッチングプログラムコース4年

高校生や大学生の、いわば“おねえちゃん”が、オンラインで小学生の子どもたちと繋がり、クイズやイントロゲーム、勉強のお手伝いなどを通して一緒に楽しい時間を過ごす企画を実施しました。子どもたちには人と触れ合う機会を、親御さんにはリラックスできる時間を提供することを目的に企画しました。子どもたちからは、『またやりたい!』親御さんからは、『子どもたちが人と関わる機会が激減する中、いい時間になった』といった声をいただきました。企画は学芸館高等学校の高橋采伽さんとの共同企画で、彼女とは興味関心が似ていて、次々にアイデアが出てきて形になりました。私たちの思いと子どもたちの行動が真っすぐに繋がっていると感じ、私たち自身も子どもたちから元気をもらいました。



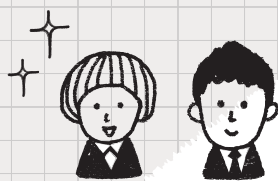
参加してくれた姉妹(左)。
二人で作った折り紙作品を小野さんに見せる様子

学生発案企画で
つながる

思いやりの輪

「コロナ禍の今だからこそ、できることがある！」

そんな思いを持った学生たちによる学生発案プロジェクトが、この数カ月で続々と誕生！
オンラインで人と人とが繋がる方法を模索したり、新たなプラットフォームを立ち上げたり…
その輪はどんどん広がりをみせています。



採用のエコシステムを構築! 面接に落ちたら『ABABA』

企画

久保 駿貴さん
理学部4年



『ABABA』は、就活中の友人が“あばばば”と慌てている様子からネーミングしたそう



『ABABA』は最終面接に落ちた学生を企業間で推薦、採用できるプラットフォームです。企業側はフィルタリングされた優秀な学生を確保することができ、採用フローをカットできるというメリットがあります。最終面接で落ちたらそれっきり…という学生の就職活動。言うなれば、ドラクエやFFのようなRPGをセーブできない状態で進めるようなものです。『ABABA』はこの非効率なRPGの世界に『セーブポイント』を作り出し、そこまでの頑張りが評価される世界を実現します！コロナの影響で、就活に苦戦する友人を支えたいとの思いが原動力となりました。

※ドラクエ：ドラゴンクエスト、FF：ファイナルファンタジー、RPG：ロールプレイングゲーム



多様性を認め合い、共に学ぶ

岡山大学の

インクルーシブ教育

「ダイバーシティ&インクルージョン(以下D&I)」は、多様性を互いに尊重し認め合い、包摂するという考え方。本コーナーでは、D&Iに関する取り組みを通して、岡山大学の新たな可能性を見いだしていきます。第2回は、コロナ禍でオンライン授業中心の学びとなり、学び方を考える契機となった今、これからの「岡山大学のインクルーシブ教育」について考えるとともに、「大学での学びの本質」に迫ります。



全学教育・学生支援機構 講師

池谷 航介

IKETANI Kosuke

池谷 航介

全学教育・学生支援機構

昭和49年生まれ。兵庫県出身。大阪教育大学教育学部卒。大阪教育大学大学院教育学研究科修了。修士(教育学)。大阪教育大学大学教職教育研究センター・特任准教授などを経て平成29年より現職。岡山大学ティーチングアワードSDGs部門受賞(令和元年9月)

コロナ禍を経験して見えてきたものがある。
これからのオンライン授業のカタチと可能性。

インクルーシブ教育 Inclusive Education

人間の多様性を尊重し、障がいのある者とないが共に学ぶことを通して、共生社会の実現に貢献しようという考え方。2006年12月の国連総会で採択された「障害者の権利に関する条約」でも示された。

2020年4月16日、緊急事態宣言が全国に拡大したことを受け、岡山大学は感染拡大防止のためキャンパスへの入構禁止を行ったほか、種々の活動制限を実施した。授業については、第1学期(4月20日〜6月14日)はオンラインのみで実施。その頃状況を「障がい学生支援室」でインクルーシブ教育に取り組む池谷航介講師が振り返る。

「まず支援部門として私たちが考えたのは、学生がもし感染した時、いろいろなことから彼ら彼女らを守らなければいけない。早急に医療機関へつなげるだけではなく、周りからの誹謗中傷やあるいはそれに恐怖を感じてなかなか医療機関に行けないといった状況から学生たちを絶対守らなくてはいけないという覚悟でした」と話す。

加えて、オンライン授業が原則となった4月に、いち早く榎野博史学長から発せられたステイメントが重要なターニングポイントになったと池谷講師は続けた。

「学生たちに対して、『独りで思い悩まないで、どんな些細なことでもいいから相談するように』という榎野学長からのメッセージ。これは学生だけでなく、私たち教職員にとっても実に心強かったと今でも感じています」。

具体的にオンライン授業のメリットについては？との問いには…

「通常の対面型授業であれば見えてこなかった部分が見えてきたと思います。例えば対面だったら、決まった時間に決まった場所に行かなければならないという制約があります。そういう意味では今回、先生方は非常に配慮されて、学生たちが自分の裁量で授業を受けやすいように授業を構成し、なおかつ、いつでも課題提出ができるようにするなど、すごく気を配ってくれました。それによって障がい学生だけじゃなく、すべての学生が『自分でマネージメントして取り組める』という学びの自由度が生まれたかもしれません」。

ただし気になった点もこう指摘する。

「インフォーマルな学生同士からのインプットがお互いに入らない。聞き漏らし、つまり聴覚からのインプットが実は苦手だった学生が授業後に周りに聞くことでなんとなく課題を提出できていたというような事がなくなると、全部自分で管理しなければいけなくなりました。結果、課題提出が後手になって…在宅でオンラインが続いたことが原因と思われる様々な不調に対し、サポートを行っていく必要がありますね」。

その辺りを含め、池谷講師自身が思うオンライン授業の可能性について…

「オンデマンド(録画)形式であれば、気になった部分を繰り返し確認することでき、

オンライン授業に関するアンケート結果

岡山大学では、新型コロナウイルス感染症の感染状況を鑑み、4月20日からオンライン授業を導入しました。第1学期におけるオンライン授業の現状把握および今後の改善の示唆を得るため、7月1日～13日、Moodleを利用したWebアンケートを実施し、全学生12,833人のうち4,376人から回答を得ました。(回答率:34%)

オンライン授業は主に次の3タイプから教員が選択し実施。

- ① **オンデマンド型Ⅰ** (Moodle等への資料等の掲載)
- ② **オンデマンド型Ⅱ** (Moodle等への資料等の掲載、かつ、音声あるいは動画による説明)
- ③ **リアルタイム型**

これらの実施方法について、学生の満足度や意見を取りまとめた結果をご報告します。

01 オンライン授業全体について

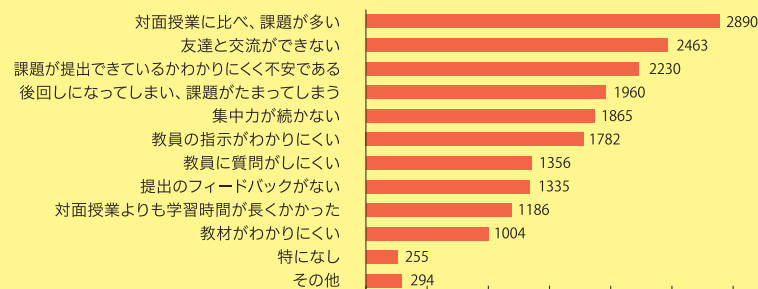
■ オンライン授業全体で良かった点



[その他]

- ・通学や移動する必要がなく、時間を有効活用できた。
- ・感染のリスクを軽減できた。
- ・教員の工夫や熱意が感じられるものもあり、意欲的に受講できた。
- (資料が作り込まれていたり、メールだけでなく掲示板やチャットを用いて質問に対応してくれた。)

■ オンライン授業全体で困った点

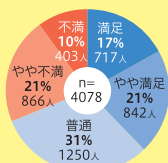


[その他]

- ・授業に関することについて周知が徹底されていなかった。(出欠/課題の提出方法/教員の連絡先/動画や資料の閲覧期限)
- ・授業内容や授業形態(オンデマンド型かリアルタイム型か)について事前連絡が十分でなかった。
- ・教員からのフィードバックが十分でなかった。
- ・目や首や肩の疲労が大きかった。

02 オンライン授業【タイプ別】について

① オンデマンド型Ⅰ



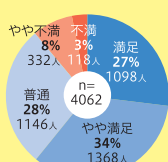
良かった点

- ・自分のペースで学習でき、復習がしやすかった。
- ・対面授業を想定して作成したスライドや資料に、口頭で説明する予定だった内容を盛り込んだものは、分かりやすかった。

困った点

- ・解説や説明なく資料のみを掲載し、課題を課す授業があった。
- ・パワーポイントのスライドと教科書を交互に見るだけで内容が頭に入っていない。
- ・大学の授業を受けているというよりは、自学自習と同じ。
- ・重要な部分がわかりづらい。
- ・明らかに手を抜いているとわかる授業があった。
- ・理解するのに時間がかかり、理解度にも不安がある。
- ・専門科目や言語科目には不向きだった。

② オンデマンド型Ⅱ



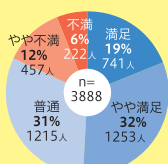
良かった点

- ・自分のペースで学習でき、復習がしやすかった。
- ・教員の説明が加わることで、重要なところが明確になった。
- ・周囲の受講生の様子が気にならず、マンツーマンで受講しているような感覚で対面授業よりも集中できた。

困った点

- ・スライドを読み上げるだけの授業があり、音声や動画をつける必要性を感じられなかった。
- ・音声が聞き取りにくい・途切れる、画質が悪いなど、音声・動画に不備があるものがあつた。

③ リアルタイム型

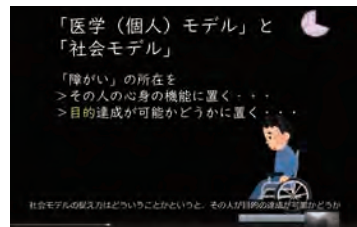


良かった点

- ・コミュニケーションがとりやすかった。
- ・生活リズムが整った。
- ・対面に最も近いように感じた。
- ・ゼミなどの少人数に向いていた。
- ・教員の雰囲気がかみやすかった。

困った点

- ・通信環境が悪い場合、受講することができなかった。(リアルタイム型が通信環境の影響を最も受けた)
- ・通信環境が比較的良好な深夜に受講することができなかった。
- ・時間を指定されるので、オンライン授業のメリットを半減させている。
- ・資料を読むだけの授業だと、オンデマンド型Ⅱと同じだった。
- ・授業時間を超過して次の授業へ影響がでた。
- ・カメラで顔や部屋を映すことに抵抗があつた。



池谷講師がオンライン授業で使用している字幕入り動画ファイル

学びが深まったという学生からの感想がありました。また、作業自体は大変なんです、オンライン授業の画面に字幕を付けてみたくです。するとレポートの質など、学

生の習得効果が上がったのを実感しました。そう言った意味では障がいのある学生をはじめ、様々な学生が集う、いわゆるダイバーシティであることが、教材の質や学習効果を高め、インクルーシブな教育を実現するのではと感じています。

最後に、「近い将来、様々な領域でリーダーシップを発揮するであろう学生たちに授業することは、その影響範囲を考えると、波及効果は計り知れない。これからも弛まず授業内容の精錬に努めたい」という池谷講師。「コロナ禍で、なかば強制的にリモート社会となった今、改めてダイバーシティの価値に気づかされることとなったのではないだろうか」と締めくくった。

馬術部

「大切な馬たちを守りたい」
コロナ禍を乗り越えるため
SNSで寄付を募る

馬術はオリンピック競技の中で唯一、男女が同じ舞台で競い合うことのできるスポーツ。性別や年齢、体格差の優越も少ない、ある意味、自由な競技と言えるだろう。どんな人でも対等に渡り合うことができるそんな文化的な側面を併せ持つ馬術は、生涯をかけて追及したくなる魅力的な競技かもしれない。

そんな馬術に魅せられた一人が塩釜愛さん（馬術部部長・農学部4年）。動物好きで彼女が日々楽しく精進していた馬術だが、新型コロナウイルスの影響を受け、事態は一変する。

現在、津島キャンパスの厩舎には5頭が飼育されている。馬術部の活動には餌代やひづめを保護する装蹄、大会移動の車両費など年間に約400万円ほど費用がかかる。これまで学生たちは半分の200万円をアルバイト

（大会での競技補助員や馬を使った神事など）で賄っていたが、3月からアルバイトがゼロになり、代わりのアルバイトもコロナの影響でできず、1000万（3月時）ほどあった資金もあとわずかでなくなりそうな状況となった。

「いろいろ悩みましたが、馬術部のSNS（会員制交流サイト）アカウン

活躍する



学生たち

岡山大学馬術部の創部は1949年（昭和24年）、70年以上も続いている全国的にも歴史ある部。その長い歴史の中で、全日本学生馬術競技で3連覇を成し遂げるなど強豪校として名を馳せてきた。現在も中四国で毎年優勝争いをしており、全日学の大会にも出場している。

OB・OGをはじめ岡大生や近所の子どもからも支援の輪が…



寄付者には馬の写真とメッセージを添えたポストカードを送付

馬術部ファンからの温かい支援。寄付金は餌代を中心に大切に使われているとのこと。頑張れ！岡大馬術部！

「よく遊びに来てくれる近所の姉弟がお小遣いを寄付してくれたんです。これはその時、描いてくれた応援メッセージです。たくさんの方に支えられていつかは自分たちも感謝の恩返しをしたい！そう思っています」。



金銭的に楽ではない中、『馬たちの力になれば』と協力してくれました。今回の活動を通じて昔のOB・OGの方々ともつながる機会が持てたのもよかったと思っています。最後に塩釜さんが満面の笑顔で見せてくれた一枚の手紙。

塩釜 愛
農学部4年



Equestrian

環境部 ECOLOGO

「リサイクル市」で リユースをもっと身近に

環境部 ECOLOGO（エコロ）は、環境について自分たちで意識を高めながら、これまで様々な活動に取り組んできた。なかでも岡大生にとって一番身近に感じる活動として、毎年3月末に開催している「リサイクル市」がある。

これは卒業生から「まだ使うことのできる家具・家電」を無料で引き取り、ECOLOGOのメンバーが自ら清掃・点検をした後に、新入生たちに低価格で提供するというもの。「皆さんに親しみを持ってもらえるよう、『リサイクル市』という名前にしています。実際には「リユース市」なのですが、皆さんにリユースを身近に感じていただくことで、環境への意識を持ってもらえたらと思って企画しています」と話すのは部長の田中朱音さん（GDP3年）。毎年3月に開催されていた「リサイクル市」だが、2020年は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、3月開催は見送られ、9月にオンライン販売という新しい形式での開催となった。

コロナの影響を乗り越え オンライン販売で開催

「リサイクル市」の企画・運営など中心メンバーの一人として参加した小山拓也さん（文学部3年）は、オンライン販売の概要をこう説

広い世界で



両

いろいろなトライ

& エラーが経験できる。

それが一人ひとりの

スキルアップにつながる。



岡山大学の

明する。「今回は卒業生から回収した約200点の家具・家電を、『全品1000円』で販売しました。購入手順としては、まず自分たちが制作した『販売物品カタログ』をチェックしていただき、購入に関しては『Googleフォーム』から申し込みできるようにしました。受け取り方法は、大学内の物品管理場所へ直接取りに来ていただくか、ご自宅へ配達させていただくかの2種類を用意しました。ちなみに配送は津島キャンパス付近であれば送料『5点まで500円』で対応しました。」

今回の反響について尋ねると…

「購入者は述べ1000人くらいですね。中にはコタツを自転車で持って帰る強者も（笑）いました」とのこと。二人の率直な感想はどの問いには…「ECOLOGOはいい意味でトライ＆エラーが経験できる部活。『リサイクル市』もそれぞれが得意な分野を活かすことで、企画も運営もよりレベルアップしています」と小山さん。「せっかくオンライン販売の

ノウハウを得たので、来年からは対面とオンラインの二方向で開催するのも面白いかもしれませんね」と田中さんは今後のプランを語る。「独りではなし得ない、部員全員で作りを上げる。だから楽しく、やりがいもある」と話す二人。ECOLOGOの活動は、「リサイクル市」の他にも、NPOや行政と連携した「環境学習」や地域での清掃活動など、多岐にわたり、その活躍ぶりは岡山大学「環境報告書」にも記載されている。こうした活動を続けることで、学生たちの環境意識も着実に高まっている。

田中朱音

GDP3年

小山拓也

文学部3年



温かいご支援 ありがとうございました！

令和2年5月8日に、新型コロナウイルス感染症感染拡大に伴う

緊急支援のお願いをいたしましたところ、

卒業生の皆様をはじめ、地域や企業の方々など多くの皆様からの

温かいご支援をいただきました。深く感謝申し上げます。

大学として、学生たちの将来が経済的な理由で閉ざされることのないよう、

今後とも継続して支援に努めてまいります。

引き続き、皆様方のご協力を賜りたく、よろしくお願い申し上げます。



活用報告

経済支援

- ☐ 困窮学生225人へ3万円/人を給付
- ☐ 10日間で3,900食のお弁当を無料提供
コロナがなんじゃ！
WIN&WIN学生プロジェクト
『岡大生の食支援×
地域飲食店の活性化』
- ☐ 授業料納付期限を2カ月延長
- ☐ 就職活動時の宿泊施設借り上げ
- ☐ 留学生(正規生)への緊急支援



教育環境整備

- ☐ PCやWi-Fiルータを無償貸与
- ☐ ICTを活用したオンライン相談の充実

医療・研究活動支援

- ☐ 医療用マスクやガウン等の購入
- ☐ 新型コロナウイルス感染症の研究活動への支援

支援者からの応援メッセージ)))

学生さんの修学を応援しています。わずかですが、お役に立てただけなら幸いです。新型コロナの危機を乗り越え、岡山大学がさらに発展されることを願っています。

学生の皆さん、未来を信じて頑張ってください。

大学を辞める事なく、学業を継続できるようお願いします。大学職員の方々も大変だと思いますが、学生達をよろしくお願いします。

中四国地方トップの研究大学として、ますます研究活動が促進されますことを望みます。

以前、家族が手術をして岡山大学病院でお世話になりました。少しでもお役に立てればと思い寄付させていただきます。スタッフの皆様、体調を崩しませぬようご自愛ください。

コロナに打ち勝て。ピンチはチャンス。一致団結。

この度は、支援金を給付していただき、本当にありがとうございました。コロナウイルスの影響によってアルバイトができず、生活に困っていましたが、今回の支援金は本当に助かりました。将来自分なりの形で恩返し出来ればと思っています。(留学生/理学部1年)

就活の際に東京での宿泊施設を提供していただきました。コロナの影響でアルバイトがなくなってしまっていたため、都内で無料で宿泊ができ、金銭的に助かりました。就活生のために支援して下さいありがとうございました。(法学部4年)

大学に行けず孤独な状況でしたが、お弁当配布に参加したことで同級生や先輩方と知り合うことができました。このような機会を提供くださった支援者の方々に深く感謝し、このご恩を返せるように日々励んでいます。(法学部1年)

(((学生からの感謝の声



ご寄付のお願い

岡山大学では『学生生活支援パッケージ』を策定し、新型コロナウイルスの感染拡大に伴う緊急学生支援を継続的に行っています。「岡山大学学都基金」へのご寄付により財源を確保しています。皆様の厚いご支援とご協力を賜りたく、お願い申し上げます。

愛称

OG Wellness SALON

●対象施設

ラーニングcommons、リフレッシュスペース
※いずれも中央図書館本館1階

●Message

健康的な未来を創造する場として
OG Wellness SALONは岡山大学の皆さまに
役立てられることを期待しています



マスコットキャラクター兼
特別広報「OGくん」が
お出迎え!

岡山大学初!

ネーミングライツ
パートナー
&
愛称が決定!

ネーミングライツ事業について、オージー技研株式会社、株式会社岡山村田製作所の両社と9月11日、ネーミングライツ・パートナー契約を締結し、中央図書館の施設に以下の愛称をいただきました。ネーミングライツは、本学の施設に愛称を付与することで、施設の魅力向上を図り、本学及び地域の活性化に貢献するものです。愛称が広く浸透し、学生・教職員や地域の皆さまの教育・研究・学修活動に貢献できる施設となるよう、活用していきます。(※契約期間は2020年10月1日から3年間)



ボールに乗って動くロボット
村田製作所
チアリーディング部



愛称

ムラタスクエア Murata SQUARE

●対象施設

ヒヨセルーム

※中央図書館 本館2階

愛称

ムラタアカデミア Murata Academia

●対象施設

サルトフロresta

※中央図書館 本館2階



株式会社 岡山村田製作所

●Message

地元企業としてこのような形で、当社の企業理念である文化の発展に貢献できることを誇りに思います。多くの方にご利用いただき、実りある場となることを期待しております

ネーミングライツ
パートナー募集!



情報統括センター内の5カ所については、引き続きパートナーを募集しています。詳細はこちらからご覧ください。

<お問い合わせ>

財務部財務企画課 財務総務担当

TEL: 086-251-7065

E-mail: bae7065@adm.okayama-u.ac.jp



2019年ノーベル化学賞受賞者の吉野彰・旭化成株式会社名誉フェローに名誉博士号を授与し、特別講演会を開催

LECTURE

10月22日、2019年ノーベル化学賞受賞者の吉野彰・旭化成株式会社名誉フェローに、岡山大学名誉博士号を授与し、特別講演会を開催しました。

授与式では、榎野博史学長が吉野名誉フェローに名誉博士記を授与。講演会では、吉野名誉フェローの生い立ちやリチウムイオン電池開発までの研究の軌跡をご紹介いただいたほか、サステナブルな社会の実現に向け、さまざまな課題を解決する社会像が提示されました。本学学生に向け、「研究していて壁にぶつかることは必ずありますが、壁を越えるたびにゴールに近づくことができます。能天気さを特効薬にして頑張ってください」とエールをいただきました。本講演会は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、会場への来場者数を絞ってオンラインでの同時開催とし、本学学生・教職員計約800人が参加登録・聴講しました。

自分ごととSDGsを実践！ 学生×生協のコラボでTFT弁当が誕生

DEVELOPMENT

7月13日からピーチユニオン2階テイクアウトコーナーで、開発途上国の子どもの給食を支援するTFT(TABLE FOR TWO)弁当の販売が始まりました。昨年4月から提供を開始したTFTメニューに続く第二弾として、経済学部3年の中澤拓也さんが中心となり企画。岡山大生活協同組合の協力により実現しました。

TFT弁当は、TFT豆腐ハンバーグ弁当、TFTホキ味噌漬け焼き弁当、TFT鶏肉オニオンソース弁当(各463円(うち20円が募金分))の3種類が週替わりで登場。10時～の販売で、1日20食程度を提供し、なくなり次第終了となります。弁当はいずれも、TFTのガイドラインにある「カロリー730kcal程度の野菜が多いヘルシーなもの」という条件を満たすように作られています。日本でのヘルシーな食事1食が、購入者の健康増進とアフリカ・アジアで子どもたちの温かい給食1食につながる仕組みです。



TFT…日本発の社会貢献運動。先進国の参加者と開発途上国の子どもたちが、時間と空間を越え食事を分かち合うことで、先進国の飽食と開発途上国の飢餓の同時解決を目指すというもの。

TFT…日本発の社会貢献運動。先進国の参加者と開発途上国の子どもたちが、時間と空間を越え食事を分かち合うことで、先進国の飽食と開発途上国の飢餓の同時解決を目指すというもの。

筋萎縮性側索硬化症(ALS)を 新しい幹細胞で治療する！

～ALSモデルマウスにおけるヒトMuse細胞静注療法の治療効果～

DISCOVERY

大学院医歯薬学総合研究科(医)の阿部康二教授と山下徹准教授、東北大学大学院医学系研究科の出澤真理教授の共同研究グループは、筋萎縮性側索硬化症(ALS)モデルマウスにヒト骨髄由来Muse細胞を経静脈的に投与すると、運動機能などにおいて症状進行抑制効果があることを発見しました。これらの研究成果は10月13日、英国科学誌「Scientific Reports」のResearch Articleとして掲載されました。



ALSでは脳脊髄にある運動神経細胞が減少し続けて運動麻痺が進行する神経難病であり、根本的治療がないのが現状です。今回、ヒト骨髄由来Muse細胞を経静脈的に反復投与すると、マウス脊髄(特にこのモデルで傷害の強い腰髄)に遊走し、脊髄を構成する細胞に分化し、運動神経細胞脱落や運動機能低下を抑制する治療効果を確認することができました。本研究成果は、進行する運動麻痺や呼吸筋麻痺に苦しむALS患者を救う新たな治療法開発につながることを期待されます。

内閣府「国立大学イノベーション 創出環境強化事業」に採択 イノベーションエコシステムの構築を加速

PROJECT

本学は10月19日、内閣府の令和2年度「国立大学イノベーション創出環境強化事業」の重点支援類型③において、順位1位で採択されました。

本事業は、国立大学の外部資金獲得実績などに応じたインセンティブとなる資金を配分することで、国立大学における民間企業との共同研究における適切な間接経費の確保や寄附金等の多様な民間資金獲得を推進し、イノベーションの創出に必要な財源確保を進め、大学の経営基盤の強化を促すことを目的として公募された事業です。

本学はこれまでの制度改革や民間資金獲得実績などを基に、今後、イノベーション創出を連続的に生み出すイノベーションエコシステムの環境整備を加速するとともに、本学自身がこれまで気がつかなかった大学の価値を収益に転換する取組などを実施する計画を策定。その結果、本事業の採択に至り、本年度は5億円の交付金が配分される予定です。



岡山大学とベネッセが共同研究「瀬戸内サステナビリティ&ウェルビーイング研究プロジェクト」を開始

RESEARCH

本学と株式会社ベネッセホールディングス(以下「ベネッセ」)は、SDGsを軸に、2020年度から2022年度の3カ年をかけて、地域の持続可能性と「well-being: ウェルビーイング」の学術的研究を共同で進めることを決定しました。直島メソッドならびに公益資本主義が、直島・犬島・豊島の3島を中心とした地域や住民の「well-being: ウェルビーイング」にもたらした変化とそのメカニズムについて調査し、学術的な成果としてまとめます。

共同研究にあたり、槇野博史学長は「新型コロナウイルスの流行を経て、新たな社会を作っていくにあたっては、人間の価値や豊かな生き方が重要になります。SDGsを推進してきた本学とベネッセの共同研究を通じて、サステナビリティとウェルビーイングとは何かを研究し、世界に発信していきたいと考えています」、ベネッセの安達保代表取締役社長は「資本主義の転換期の鍵はSDGsにあります。課題先進国の日本がどのようにSDGsに貢献していくかは重要な視点です。直島を中心にベネッセが取り組んできた地域再生モデルを一つのヒントに、Well-Beingを実践する方法を研究し、これからの時代のWell-Beingに貢献できればと思います」と話しています。

大学の動き(2020年7月～11月)

2020		
7月	22日	● 岡山大学病院が高梁医師会および高梁市と、高梁市地域医療連携に関する協定を締結
8月	11日	● 岡山大学Webオープンキャンパス2020を開催
	19日	● 株式会社 林原とSDGs産学パートナーシップに関する協定を締結
	21日	● 新生「工学部」の設置が文部科学省に承認
	26日	● 湧永製薬株式会社と包括的連携協定を締結
9月	25日	● 令和2年度秋季学位記授与式を挙行政
10月	1日	● 令和2年度秋季岡山大学入学式、大学院入学式を挙行政
	16日	● ホームカミングデイ2020メッセージ動画を掲載 金光功労賞授賞式を開催
	31日～ 11月1日	● 岡山大学オンライン大学祭を開催
11月	2日	● 沈教授が令和2年秋の紫綬褒章を受章

リモートによる院内コンサート「岡フィル・レインボーコンサート」を開催

CONCERT

岡山大学病院は9月17日、Jホールで、岡山フィルハーモニック管弦楽団による「岡フィル・レインボーコンサート」をリモート開催しました。

当院では、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で院内コンサートを3月上旬から中止していましたが、病気に闘っている患者さんに向けて何か明るくなる話題を提供できないか検討している中で、同楽団から《リモートコンサート》の提案をいただき、このたび初めて実施。演奏は無観客のホールで行い、コンサートの様子はインターネットを通じてリアルタイムで配信しました。外来患者さんには、個人のスマートフォンなどから視聴可能なURLを案内し、入院中の患者さんは各病室のテレビで、それぞれ演奏を楽しんでいただきました。

金澤右病院長は「一人でも多くの患者さんに元氣と癒しを与えられるよう、これからも新型コロナウイルス感染症と共存しながら、新たな形式のコンサートとして続けていきたい」と話しています。



令和2年度秋季岡山大学入学式、大学院入学式を挙行政

CEREMONY

10月1日、秋季入学式を創立五十周年記念館で行い、新たに入学したグローバル・ディスカバリー・プログラム学生26人と大学院生83人が大学生活へのスタートを切りました。

槇野博史学長は式辞で「今日、皆さんは新たな入り口に立っています。一歩踏み出して、新しい道を切り開くことに挑戦しましょう」と新入生を激励。新入生を代表して、グローバル・ディスカバリー・プログラムの野村夢子さんが「世界はグローバル化し、私たちはお互いの違いを尊び、理解し合っていく必要があります。私たちは、個々人が成長し、知識と自立性を身につけるとともに、それぞれが持つ違いにより排除されることのない社会を作っていくよう、共に取り組んでいきます。この理想と個々人の目標に到達するため、私たち新入生は一生懸命勉学に励み、輝かしい未来を築き上げることをここに誓います」と宣誓しました。



岡山大学 SDGs アンバサダーの

MySDGs 宣言!

1周年イベント開催

令和元年7月31日に岡山大学SDGsアンバサダーが発足し、1年が経過しました。
記念イベントとして、運営部の学生が中心となりオンラインイベントを開催。
アンバサダーの取り組みや運営部の活動を紹介したほか、
今後の目標を“My SDGs”として宣言。
パワフルな学生たちによる、SDGsの活動に今後もぜひご期待ください!

SUSTAINABLE
DEVELOPMENT GOALS

アンバサダーの活動は、SNS で随時発信中!

Twitter

Instagram

@okymuniv_sdgs



◀ 岡山大学SDGs
アンバサダー
チャンネル



学 章

岡山大学広報 いちよう並木

より良い広報誌を作成するために、皆さまからのご意見・ご要望をお待ちしております。

発行 : 岡山大学 総務・企画部 広報課

〒700-8530 岡山市北区津島中一丁目1番1号

Tel. 086-252-1111 Fax. 086-251-7294

E-mail www-adm@adm.okayama-u.ac.jp

<https://www.okayama-u.ac.jp>

岡山大学

検索

アンケート実施中!



先着30名様に
鹿田遺跡出土絵馬
プレゼント!

